

事務事業評価シート(平成21年度)

(ソフト事業)

(A面)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課	課長名	記入者
		生涯学習課	安田一司	藤浦美由姫
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
V.O.C.事務		新規	年度	年度
		○ 継続	○ H20以前	○ 未定
事務事業の体系				
計画 掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち	(節) 2 学ぼう、活かそう	
	個別計画	(基本計画) 地域文化・芸術文化の振興		
根拠法令・条例・要綱等		事業区分(該当する区分に「○」)		
		○ ソフト事業	施設の維持管理	
		義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容		建設・整備事業	計画などの策定	
多可町芸能祭及び音楽祭での舞台スタッフとしての活動及び自主事業での案内・舞台スタッフとしても活動している。 また、スキルアップの技術研修活動も行っている。		補助金の支給	○ 有	無
		委託	全部委託	一部委託
		○ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象(働きかける相手・誰が・もの)	受益者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)
VOC会員	町民	文化会館ボランティアオペレーター会員の拡大を図る

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>										会計名	一般	会計		
細目名	文化会館事業				細目名					細目名				
予算コード	款	項	目	大事業	予算コード	款	項	目	大事業	予算コード	款	項	目	大事業
	10	5	9											

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>						
事務事業・人員		単位	20年度 決算	21年度 実績(見込)	22年度 計画	備考 (全体事業費など)
総コスト			4,880	4,227	4,435	
コスト の内訳	直接事業費	千円	473	500	500	
	所属内間接費		94	109	317	
	人件費		4,313	3,618	3,618	
	投入人員	正職員 嘱託員	人/年	0.51	0.51	
財源 内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源		4,880	4,227	4,435	

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	20年度 実績	21年度 見込	22年度 目標
1	VOC事務	新規会員の募集を行う	会員数	人	25	27	30
2							
3							
4							
5							

(ソフト事業) (B面)

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [V.O.C.事務]			
成果指標(意図の数値化)	単位	20年度実績	21年度実績(見込)	22年度目標	備考 (成果指標の考え方・計算方法)
活動回数	回	20	30	35	舞台スタッフとしての技術向上の研修を行い、VOCとしての自主的な事業を新たに行う。

7 事務事業の事後評価 <Check>				(ソフト事業)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは	○ 高い	高くない		把握なし	会員はわずかながら増加しているが、住民主体でホール運営をしてるので、会員の増加は急務である。		
		緊急性は	○ 高い	高くない					
		利用者・対象者数は	○ 増加	減少		横ばい			
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は		ない	ある	○ 把握なし			
	町の関与の 必要性	民間の事業(サービス)との競合は	○ ない	ある					
国や県の事業(サービス)との重複は		○ ない	ある						
妥当性	サービス 水準の 妥当性	事業開始時から社会環境の変化は		ない	○ ある		ボラインティアの考え方も時代とともに変化してきおり、ボランティアとしての新たな意義を見いだす必要がある。		
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は		ない	○ ある				
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	○ ない	ある		把握なし			
	連携の 可能性	他課で類似の事業は	○ ない	ある					
		他の事業と統合できる可能性は	○ ない	ある		あるが困難			
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	○ ない	ある		あるが困難			
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は	○ ない	ある		あるが困難			
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	○ ない	ある			研修を行い、技術レベルの向上が急務であるので、研修内容の見直しが必要である。		
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	○ ない	ある					
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○ ある				
		受益者負担を見直す余地は	○ ない	ある					
有効性	目標の 達成度	成果指標が明らかで	○ ある	ない			技術向上の研修を行うことにより、芸能祭等でのスタッフ人件費を抑える事が出来る。		
		前年より成果が上がって	○ いる	いない		横ばい			
	持続の 可能性	継続することによる効果は	○ 高い	高くない					
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて		いる	いない	○ 測定困難			
		事業の休・廃止による住民への影響は	○ 大きい	大きくない					
市場化の 可能性		既に全部委託済		更なる委託化が可能である		委託化の余地があり	○ 委託化は不可能		
		市場化テストの導入について検討する余地がある			○	市場化テストの導入を検討する余地はない			
改善の可能性			1.改善の余地はない			○	2.改善の余地がややある		
			3.改善の余地が多い				4.抜本的な見直しが必要		

事務事業評価書

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action> V.O.C.事務

職場からの意見(担当者)									
(課題の解決についての提案など) 社会情勢の変化によりボランティア運営が難しくなっているが、住民主体でのホール運営には欠かせない団体であるので、今後も技術向上の研修を行い、舞台スタッフとして技術レベルの向上を目指す。 また、団塊の世代の方々にも会員になって頂き、様々なアイデアを出して頂き、VOCとして自主的なイベントも開催をしていきたい。									
担当課長評価									
(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 技術向上のため研修をしていただき、引き続き会館運営ボランティアとして協力をお願いする。 町広報、たかテレビ等のいろいろな媒体で、ボランティアスタッフの活躍を紹介するなど、ボランティア募集や、ボランティアに対する理解を深める努力をして、スタッフ増員につなげていければ。(実績)									
所管評価		1. 重点的に継続	○	2. 現状のまま継続		3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了	内部評価		3
教育長評価									
(教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか) より多くの人にボランティアとして協力してもらえるようお願いしていく。									
事業評価		1. 重点的に継続	○	2. 現状のまま継続		3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了			
理事者評価									
もっと会員を増やして継続に努めてほしい。									